

医科研病院だより



第12号

発行：東京大学医科学研究所附属病院
平成23年7月15日
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1
代表電話03-3443-8111
ホームページ <http://www.transrec.jp/>

CONTENTS

新看護部長あいさつ	1
すこやか・カフェ	2
栄養サプリ	3
なんでも・ひろば	4

新看護部長あいさつ

看護部長 武村 雪絵

このたび、尾上裕子前看護部長の後任として看護部長を拝命しました、武村雪絵と申します。歴史と実績のあるこの素晴らしい病院で、職員の一員として働けることをとても光榮に思っております。

着任に際し、まず、先の東日本大震災で犠牲となった多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。ご親族や友人が被災された方々のご心痛もいかばかりかと思ひます。そして、被災地の復興に力を注いでいる方々に心より敬意を表したいと思います。

今、日本中の人々、世界の人々が少しでも被災地の力になりたいと願っています。私達看護師は、命を守り、からだと心が本来もつ力を引き出し、日常の当たり前な生活をとりもどすサポートをする専門職です。被災者の力になりたいと願う看護師は数多くいることでしょう。一方で、今回の震災で、医療は私達病院職員の力だけで提供しているわけではないこと、多くの力に支えられて医療が成り立っていることを痛感しました。電気、食べ物、水、医薬品、医療材料、リネン類の供給に影響が出て、これらが関東東北地域から供給されていることを知りました。そして、各社が使命感をもって供給を回復してくださいました。当院から実際に被災地に派遣できる看護師はごくわずかですが、私達は今、ここで、私達にできることをしっかりとやりたいと思ひます。専門職としての自分を高める努力を続け、エネルギーやものを大切に使い、一人でも多くの患者(ノ)に

(ノ)を受け入れ、目の前の患者に最良の医療を提供したいと思ひます。そのことを通じて、この地域に、未来の日本に貢献したいと思ひます。

当院は、先端医療を開発し実践する使命をもつと同時に、地域住民の健康を守る一般病院としての機能も合わせもっています。私は、看護の役割と責任は、患者さんの身体と心もつ力を最大限に引き出すこと。患者さんと家族、社会とのつながりを最大限に活かすこと。患者さんに寄り添い、患者さんの意思を尊重し、患者さんの権利を護ること。医療チームの力を合わせて、安全で適切な医療を提供すること。そして、これらの成果をまとめ未来の医療に貢献することだと考えています。平成23年3月からは最も手厚い看護師配置である7対1入院基本料を算定しています。いっそうの看護の充実を図るため、看護師教育の充実、職場環境の改善に努めたいと思ひます。どうぞ、忌憚のないご意見、ご指導をたまわりますようお願い申し上げます。



トピックス

◆6月16日に、病院棟8階トミーホールにおいて、Scaffen Trio (シャッフエン・トリオ) のみなさんによる被災地復興支援コンサートが開催されました。

Scaffen Trioは、ピアノの天野浩子さん、ヴァイオリンの富沢由美さん、チェロの西山健一さんの3名で構成されたアンサンブルユニットです。

今回はエルガーの「愛のあいさつ」などのクラシック曲からアンジェラ・アキの「手紙」などのポピュラーソングのアレンジ曲までを素晴らしい演奏で聴かせてくださいました。

また当日会場には東日本大震災義援金の募金箱が置かれ、たくさんの方にご協力をいただきました。集まった募金132,685円は全額、東京大学がとりまとめる【東日本大震災支援プロジェクト】に振り込ませていただきました。



素敵な演奏をご披露くださったシャッフエン・トリオのみなさん(左)と演奏を楽しむ会場のお客様たち(右)

◆病院からのお知らせ◆

●臨床検体の取扱いにつきまして

当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は

http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ore/IMSUT_ORE_7.html をご覧ください。

すこやか・カフェ



地域医療連携室があります！

この連携室は患者さんの利便性のために作りました。
医療に関する様々なことをご相談いただければ嬉しく思います。
03-6409-2042 へお気軽にお電話ください。
よろしく願いいたします。

院長 今井 浩三



平成22年12月から医科研の地域医療連携室が本格始動しました。患者さんや医療施設からのご予約を受けることや治療や診療に際しての様々な問い合わせに対応しております。始動当初は、電話での対応や予約日時の確認が不十分だったことから患者さんにご迷惑をおかけしたこともありました。この場をお借りしてお詫びしたいと思います。現在は、マニュアルも改定を重ね、当初よりはスムーズに対応ができるようになったのではないかと考えております。ですが、まだまだ難しい対応に戸惑いながら活動しております。

今後も、患者さまのより良い診療サポートとしての活動をしていきたいと考えております。
どうぞよろしく願いいたします！

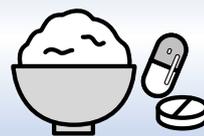


こんな疑問に対応させていただきます！

「どの科に受診したらいいの？」「治療についての相談がしたい！」

などなど、ご相談ください。私たちが対応させていただきます。

栄養サプリ



放射性物質と食品

放射線科 渡辺 慎

すでにご存じのように、今年3月の原子力発電所事故では多量の放射性物質が外部に放出され環境が汚染されました。大気中の放射線線量は当院の近くでは低下していますが、産地の土壌などに残存した放射能による農作物の汚染はしばらく続く可能性があり気になるところです。ここでは、まず食品由来を含む自然放射線について確認したあと、放射性セシウムが混入した飲食物でどの位の線量を浴びる可能性があるのか考えてみたいと思います。

1. 自然放射線について

人間は日常生活で体の内外から常に自然界の放射線を浴びています（＝被曝しています）。放射線の人体影響を表すために「シーベルト（Sv）」という単位が使われ、自然放射線の年間線量は世界では平均約2.4ミリシーベルト（mSv）です。日本では平均約1.5mSvで世界平均よりやや少なく、それぞれの内訳は表1の通りです。

	世界	日本
外部：宇宙線	0.39	0.29
大地放射線	0.48	0.38
内部：吸入（ラドンなど）	1.26	0.40
経口（カリウム40など）	0.29	0.41
合計	2.42	1.48

表1 自然放射線の年間線量（実効線量）（単位：mSv ただし1Sv=1000mSv）

宇宙線による被曝は緯度や標高が高いほど増加します。大地放射線は主に地質に依存し、花崗岩では多く、安山岩などの火山岩や関東ローム層では少なくなります。ラドンは土壌や建材中のラジウムから生じる放射性ガスで、換気の悪い屋内で高濃度になりやすく、呼吸器系の内部被曝源です。食品中にも放射性物質が含まれていますが、特にカリウムのうち0.0118%を占める放射性的⁴⁰K（半減期13億年）による内部被曝は年間0.17mSvと推定されており、食品由来としては最も線量が多い放射性同位体です。

日本の特徴は、外部被曝やラドン吸入による内部被曝は世界平均より少ない一方で、食物による内部被曝はやや多くなっていることです。これは主に海産物に含まれているポロニウムによると考えられています。

2. 放射性セシウムによる汚染について

今回の原発事故では、放射性ヨウ素¹³¹I（半減期8日）などの様々な放射性物質による汚染が報じられましたが、半減期や量からは長期的に影響を及ぼす可能性のある核種は放射性セシウム、特に¹³⁷Cs（半減期30年）と考えら（メ）

（メ）れます。¹³⁷Csは経口摂取によりカリウムと同様に全身に分布して内部被曝の原因となります。放射性セシウムについては、緊急措置として「暫定規制値」が発表されていますが、その根拠としては、摂り続けても全身の被曝線量が年5mSvに達しない値を設定したということです（食品安全委員会 放射性物質と食品に関するQ&Aなど）。

具体的な規制値は、飲料水と乳製品は200Bq/kg、それ以外の食品については500Bq/kgとなっています。なお、「ベクレル（Bq）」は放射性物質の量を表す単位で、1秒間に崩壊して放射線を発する原子核の数を表しています。

以下では、この規制値通りの¹³⁷Csを含む平均的な内容の食事を1年間続けると仮定した場合の被曝線量をいくつかの年齢層ごとに試算してみます。年齢別・食品群別の平均摂取量は「平成20年国民健康・栄養調査報告（厚生労働省）」、食料の品目別自給率（重量ベース）は「食料需給表（農林水産省）」からの計算値、BqからSvへの換算係数や線量算定式は「緊急時における食品の放射能測定マニュアル（厚生労働省）」を参考にしました。食品汚染の範囲に関しては、A) 全ての食品、B) 全ての国産食品（輸入食品はクリーン）の2つの場合を想定し、C) 水の1日摂取量は、乳児は1リットル、他の年齢層は2リットル、を想定して計算したところ、結果は表2の通りでした。

年齢（歳）	成人 20-	青年 15-19	少年 7-14	幼児 1-6	乳児 0-1
A	2.97	3.04	2.19	1.40	2.29
B	2.05	2.18	1.51	0.94	1.57
C	1.90	1.90	1.46	1.42	1.53
A+C	4.87	4.94	3.65	2.82	3.82
B+C	3.95	4.08	2.97	2.36	3.10

表2 暫定規制値のセシウム137汚染による年間被曝線量（単位：mSv）
A) 全食品：暫定規制値 B) 国産全食品：暫定規制値 C) 水：暫定規制値

¹³⁷Csによる被曝線量は乳児を除いて主に摂取量に依存し、多い順に、青年>成人>乳児>少年>幼児 となっています。全食品の暫定規制値通りの汚染を仮定した場合（A、A+C）、最も線量が多い青年でも5mSvは下回り、食品輸入（自給率）を考慮するとさらに低下します（B、B+C）。

規制値ぎりぎりの食料や水ばかりが流通する状況は考えにくいので、実際には表2の値をかなり下回れるでしょう。例えば東京都水道局の検査では、最近では検出限界値（6-7Bq/kg）未滿が続いています。このレベルの水ならば青年や成人が1年間摂取しても0.057～0.0665mSv未滿となり、⁴⁰Kによる内部被曝と比べても小さな値です。私見ですが、今後大規模な放射性物質の放出がなく、自治体等による検査や規制が適切に続けられるなら、市販の食品によるセシウム被曝の影響は無視できるほど小さく、検出は難しいと思われるます。

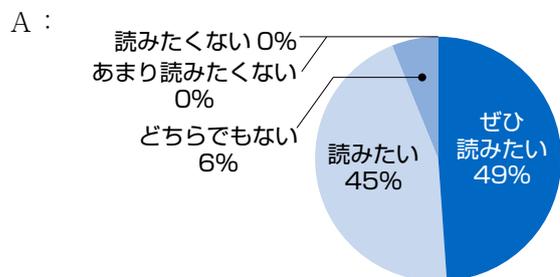
なんでも・ひろば



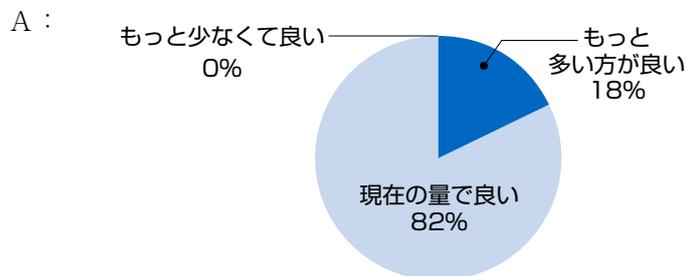
「医科研病院だより」アンケート集計結果

いつも「医科研病院だより」をご愛読いただきありがとうございます。また、昨年行いました読者アンケートにご協力いただいた皆様には、重ねて御礼申し上げます。集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。ご回答いただいた方は計52人で、内訳は患者さん41人、患者のご家族8人、その他3人でした。

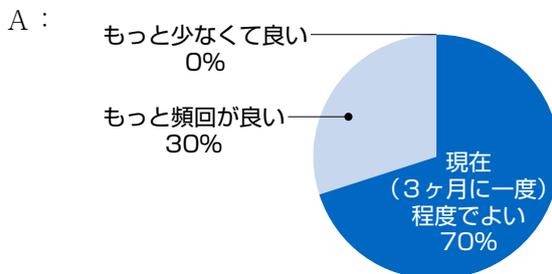
Q：今後も続けて読みたいと思いますか？



Q：記事の分量はいかがですか？



Q：発行する頻度はどの程度が適当だと思いますか？



Q：今後読みたい記事は？

- A：
- 趣味やその人となりがわかる医師の紹介、
 - 各部署の紹介、
 - 病院を含めた医科研の歴史、
 - 現状に関する説明や解説、
 - 病気の解説や研究内容を含めた医科研の医療の実態などでした。

自由なご意見へは、「医科研病院だより」を楽しみにしているという声が多く寄せられました。その他、医科研がもっと主導的に医療開発を進めるようにという激励や、イベント・ボランティアの連絡方法等改善を要する事項へのご指摘もいただきました。

これらの結果および皆様のご意見を取り入れて、ますます魅力ある「医科研病院だより」を発行していきたいと思っております。ありがとうございました。

東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

診療科

- 内科（総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、代謝・内分泌、循環器、消化器）
- 小児科（小児細胞移植）
- 外科（一般、腫瘍、消化器、乳腺）、整形外科（関節）
- 放射線科、麻酔科、遺伝相談

外来診療日

月曜日～金曜日（祝日および年末年始を除く）

診療受付時間

- 8：30～11：30（初診・再診）
- 12：30～16：00（再診のみ）
- ※予約時間の15分前までに受付にお越しください。（確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください）
- 予約専用電話（予約受付および変更）
- 診察：03-5449-5560
- 検査：03-5449-5355
- 受付時間 8：30～17：00（外来診療日のみ）

アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
- JR山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分（1メーター）
- JR品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
- 東京メトロ日比谷線広尾橋から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車
- ※患者専用駐車スペースも数台分ございます。ご利用は受付にお申し出ください。

